

大腸内視鏡検査・治療に関する説明・同意書

【検査の目的】

大腸内視鏡は出血の原因検察やポリープの有無、粘膜の状態観察など大腸に関わる病気を精査する目的で行います。また、ポリープなどがある場合はそれを切除したり、出血がある場合は出血を止めたりすることもあります。

【方法】

まず大腸をからっぽにするために前日から下剤を飲んでいただきます。便秘の方は下剤を追加したり、検査食をおすすめすることがあります。

検査当日は朝から1-2リットルの下剤とその半分の水を飲んでいただきます。

便が残っていない状態と判断できれば午後から内視鏡を行います。準備ができた(便がきれいになった)順番で内視鏡を行います。

内視鏡時に点滴と検査のために必要な注射(腸の動きを調節する薬、鎮静剤)を使用しつつ、内視鏡を肛門から挿入し検査します。検査時間は10-30分です。検査後1時間程度様子を見て問題なければ結果説明して帰宅となります。

【偶発症】 この検査(下剤の前処置含めて)を受けることで一定の確率で偶発症をきたします。下剤の前処置により腸管穿孔、腸閉塞、敗血症で死亡例が報告されています。全国規模での統計上は大腸検査全体で0.011%に穿孔や出血、0.0004%に死亡例が報告されています。頻度は低いですが、もし偶発症が発生した場合はその場で適切な対応(内視鏡処置、転送など)を取ります。その際は保険診療で行われます。

【そのほかの検査方法】

大腸の粘膜を観察できるのは内視鏡のみですが、お尻からバリウムを注入しレントゲンで撮影する注腸検査があります。大腸内視鏡のほうが詳しい観察が可能で、組織検査やポリープ切除など可能であるためおすすめしています。

以下の項目の目的のため大腸内視鏡による検査・治療が必要です。

- 1.便潜血陽性の原因をしらべるため
- 2.便秘や血便など大腸に関連する症状があるため。
- 3.ポリープなどの定期観察、または切除目的
- 4 そのほか ()

以上のとおりですがわからないことがありましたら質問してください。

納得でき、検査・治療を受けることに同意いただければ、以下の同意書に署名をお願いします。なお、同意を拒否されても、直前で同意を撤回されても診療上の不利益を受ける事はありません。

大腸内視鏡検査を受ける方にお伺いします。

内視鏡でポリープが見つかった場合、切除が必要で、さらに内視鏡的に切除可能でかつその場で切除できると判断した場合に、
切除を希望されますか。

切除を 1.希望します。 2.希望しません。

なお、大腸ポリープを切除した場合は報告により、0.5-1.7%に出血や 0.05-0.8%に穿孔の危険性があるため、7日間は激しい運動や飲酒、旅行、出張は控える必要があります。血便が出たときはすぐに当院に連絡してください。

年 月 日

説明医師 菅野 朝

同意書

武蔵野台クリニック 内科・消化器内科 院長 殿

私(または代理人)は大腸内視鏡を受けるに当たり、検査や治療の内容、必要性について説明を受け、承諾しましたので内視鏡検査の実施をお願いいたします。

年 月 日

患者署名

緊急連絡先 氏名 (本人との関係)

電話番号

代理人署名 (本人との関係)